

平成21年度 自立支援協議会 児童部会報告

自立支援協議会 児童部会

参加者（敬称略）：大和市教育委員会指導室（阿南）・青少年相談室（小西）・ワンピース（滝本）
県央療育センター（宇山）・瀬谷養護学校地域支援室（木村・三浦）
三ツ境養護学校地域支援室（清水）・大和市障害者自立支援センター（星野）
サポートセンター花音（雑色）・第1松風園（向山）
大和市子ども部保育家庭課（熱田）・大和市障害福祉課（笹岡・進藤）
相談支援センター松風園（山田）

1. はじめに

平成21年度の自立支援協議会児童部会では、平成20年度に引き続き、福祉分野と教育分野の関係者による委員が集まり、「福祉と教育の連携」というテーマで協議を行ってきている。

2. 協議の内容

「福祉と教育の連携」というテーマで主な課題として挙げられてきたのが、発達障がい児やその疑いのあるいわゆる「気になる子」への支援についてである。平成20年度の児童部会では、障がいがあることが明確ではなく、特別支援の対象になっていない子どもたちにとっても、より地域の中で相談しやすい環境を作るために、相談窓口の周知を目的としたリーフレットの作成を行ってきた。今年度はさらに「地域への発信」をテーマに、子育ての悩み、子どもの発達についての悩みのある家族が気軽に相談できる場の提供をしていくことで相談窓口の周知を図り、また、そのような子どもの状況について、一般市民の理解を進めることで、親子が不安なく、地域でいきいきと暮らしていける環境を作ることを目的とし、「子育てサポートひろば」の開催をすることを検討し、準備を行ってきた。

また、「障がい者福祉計画」のヒヤリングや各関係機関での現状を通して見えてきた、支援を必要としている児童の地域における課題点について検討を行っている。

3. 子育てサポートひろばについて

<目的> 『相談窓口の周知』『市民の発達障がいの理解』

子育ての悩み、子どもの発達についての悩みのある家族が気軽に相談できる場の提供をしていき、相談窓口の周知を図る。

また、同日午後に予定されている市民向け研修事業～「気になる子」の理解と対応～（大和市子ども部発足記念事業）と連動し、発達障がいについて一般市民の理解を進めることで、親子が不安なく、地域でいきいきと暮らしていける環境を作ることを目的とする。

<方法> 子どもたちが遊べる場を提供しながら相談を受け付けていく。

事前予約による相談・相談窓口案内のリーフレットの配布

<対象> 大和市在住の児童

「友達と上手く関われない・・・」「ことばが遅い・・・」「遊びの幅が広がらない・・・」
「落ち着きがない・・・」「他の子とちょっと違う?・・・」などの悩みのある乳幼児・児童とその家族

<日時> 平成22年2月28日（日）10:00～12:00

3月の児童部会にて「子育てサポートひろば」開催後の反省と今後に向けての検討を行う予定にしている。

4. 支援を必要としている児童の地域における課題点について

平成21年7月には「障がい者福祉計画」についてのヒヤリングを行い、各関係機関での現状についてのアンケートをもとに、地域における課題点を挙げた。教育分野と福祉の分野が合同で検討していくテーマとして主に挙げられたのが、発達障がい児への支援であり、特に支援を必要としている「気になる子」への支援のシステムが十分ではなく、特別支援教育にも福祉のサポートにも対象となっていない子どもたちへの支援のために、教育と福祉とが連携し地域での理解を深めていくことが今後の児童部会での大きな役割ではないかという意見が出されている。

「気になる子ども」たちへの支援としては、巡回相談チームや支援シート、支援ファイル「かけはし」など特別支援教育の分野でさまざまな支援システムを構築してきているところではあるが、子どもたちに直接関わる学校現場での支援体制の限界などから、学校外への相談が増加してきている現状がある。また、相談を受け付けていても具体的な支援を受けられる資源が十分にならないこともあり、適切な支援、理解を得られず行き場を失って不登校や家庭で不適応を起こすなどの二次的な課題を抱える子どもたちも少なくないことが挙げられる。診断を受けていたり、支援の必要性が家族や本人にとっても明確になっている場合は、特別支援教育や福祉制度を利用した支援を受けられることが考えられるが、そこまでに至っていないが支援を必要とする「気になる子」をサポートするためには、子どもたちに関わる現場の先生や関係者が理解を深めていくことが大きな課題である。児童部会としては、教育現場と福祉の現場の顔の見える連携や交流を行っていくことで、地域における理解や啓発を行っていくための具体的な手段を企画していくことが主な役割ではないかと協議してきている。

今年度は、大和市教育委員会主催の教育相談コーディネーター連絡会に児童部会委員も参加し、顔の見える交流の機会を持つことができ、教育現場と福祉現場にとって有意義な機会となった。今後もさらに教育と福祉の連携を深めていくことの必要性が挙げられている。

6. まとめ

今年度の児童部会では、「教育と福祉の連携」というテーマで、主に発達障害児や「気になる子」への支援を課題に、地域への発信や啓発を目的に協議を行ってきた。また平成20年度に引き続き、より子育てに不安を抱えている家族が相談しやすいように、相談窓口の周知を目的に、リーフレットの作成と「子育てサポートひろば」の開催を行ってきた。

次年度も大きなテーマとしては、継続して「教育と福祉の連携」が挙げられており、教育現場と福祉の現場の顔の見える連携や交流を行っていくことで、地域の理解や啓発を行っていくための具体的な方法についての検討を行っていく予定である。